



元国土交通省熊本河川
国道事務所長



森田 康夫

熊本地震の復旧事業で深く関わることになった阿蘇地域。発災4カ月前の2015年12月、私が熊本河川国道事務所に着任して最初に向かったのが阿蘇神社でした。管内の安全祈願が目的でしたが、以前は「所長たるもの、地域の一の宮を知らなくて仕事になるのか」と諭す大先輩（国土交通省幹部）もいらして、新任所長は赴任先の地誌を

一生懸命勉強したものです。阿蘇神社は、カルデラ湖を切って落として美田を開き、農耕と国土の開拓に尽くしたとされる健甕龍命を主祭神とします。11世紀以降、肥後一の宮と仰がれ、肥後国の総鎮守として広く尊崇

を集めてきました。その年の豊作を祈願する3月の田作祭、青田の順調な生育を願う7月の御田祭、秋の実りを感じ謝する9月の田実祭…。一連の神事は、国重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」として、私を含めて訪れる人々の心を豊かにしてきました。JR豊肥線に乗って訪ねた16年3月の「火振り神事」。当時は国指定の重要文化財である楼門も健在で、その雄姿は今もしっかりと目に焼き付いています。しかし翌月、

熊本地震によって拝殿とともに倒壊。私は、地震によって受ける可能性のあったさらに大きな被害を、阿蘇神社が身代わりになって引き受けてくださったのではないか、このように考えてきました。阿蘇神社の再建は着実に進められています。拝殿が完成し、楼門も23年12月の完成が見込まれています。全ての修復が完了した時、熊本地震からの復旧・復興が本当の意味で実感できるのだと思います。

阿蘇神社の思い出

熊本地震